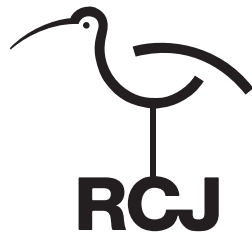


Ramsar Center Japan

2-10-3 Minami-kugahara, Ota-ku,
Tokyo 146-0084, JAPAN
Tel: +81-3-3758-7926
Fax: +81-3-3758-7927



ラムサールセンター（湿地と人間研究会）

〒146-0084 東京都大田区南久が原 2-10-3
Tel: 03-3758-7926 Fax: 03-3758-7927
E-mail: ramsarcj.nakamura@nifty.com
http://homepage1.nifty.com/rcj/

<ラムサール通信>

2017年1月16日発行 第181号

●アジア湿地シンポジウム（AWS）2017を開催します●

1992年に大津市・鈿路市で第1回が開催されその後、マレーシア、インド、ベトナム、中国、カンボジアなどアジア各国で開催されてきたアジア湿地シンポジウム（AWS）の第8回会議「AWS2017」が、25年ぶりに日本に戻ってきます。ラムサールセンター（RCJ）、日本国際湿地保全連合（WIJ）、日本湿地学会、環境省の主催のもと、ラムサール条約東アジア地域センター（RRC-EA、韓国・順天）、佐賀県、佐賀市、鹿島市、荒尾市ほかが共催し、2017年11月7日～11日、佐賀市で開催します。

AWSは地元の住民、NGO、行政、科学者、企業など湿地に関わる多様な人々のために、湿地に関する知見を共有するとともに、議論の場を提供する国際シンポジウムです。2月下旬にRRC-EAで第1回国際運営委員会を開催し、プログラムを決定して、3月には発表原稿の募集開始の予定です。ラムサール通信でも随時、続報をお届けします。最新情報はホームページ（<http://aws2017.org/>）をご覧ください。第1回アナウンスのチラシを同封します。

●「世界湿地の日シンポジウム ー湿地と防災・減災ー」のお知らせ●

ラムサール条約が1971年2月2日、イランのラムサールで採択されたことを記念する「世界湿地の日」にちなんで、WIJほか主催する「世界湿地の日シンポジウム」が、2月4日（土曜日）午後2～5時、国連大学エリザベス・ローズ国際会議場（渋谷区）で開催されます。RCJも協力します。

シンポジウムでは、「湿地と防災・減災」をテーマに、大正大学の古谷尚也先生と九州大学の島谷幸宏先生による基調講演と、7人のスピーカーによる具体的な事例報告がおこなわれます。世界各地で頻発する大規模な自然災害に、湿地が防災・減災に果たす役割が注目され、その世界の動向、日本国内の取り組みなどが紹介されます。シンポジウム終了後は懇親会もあります。

シンポジウム・懇親会ともに事前申し込み（<http://goo.gl/UnHHYj>）が必要です。詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

●第100回<ワイズユース>ワークショップ&WIJ第6回Wet. CAFÉ●

2016年の忘年会と併催されたジョイントイベントは大盛会でした

RCJ主催のワイズユース<ワークショップ>と、日本国際湿地保全連合（WIJ）主催のWet. CAFÉが、2016年12月29日に、東京・上野でジョイント開催されました。

ワークショップでは「湿地と環境教育」をテーマに、南米ペルーでの2年間の青年海外協力隊活動を終えて帰国した、RCJスタッフの尾崎友紀さんをはじめとする3人が報告をしました。尾崎さんのパラカス自然保護区（ラムサール条約登録湿地）の環境教育活動の報告では、保護区が年々観光地として人気を増し、保

護区職員が観光客の対応に追われる中で、その場にある限られた資材を工夫・活用して活動を実施していくことの重要性をあらためて認識しました。

WIJ 職員の比留間美帆さんによる熊本県有明海沿いのラムサール条約登録湿地「荒尾干潟」の環境教育活動の報告では、実際に干潟に入った子どもたちに「しゃがむ」と、カニや貝やたくさんの生きものがみえてくるよと教えているという話を聞き、より簡単に、ふだんとは違う視点で子どもたちに自然環境を見てもらうにはどうしたら良いかを考える機会になりました。

ユースラムサールジャパン (YRJ) の佐藤湧馬さんによる、中学生から大学院生までのユース世代によって運営されている同 NGO の活動に関する報告では、まずはユース自らが湿地について学ぶことを重視していること、若い世代ならではのといえるインターネットを使った発信を軸におこなっていること、湿地の魅力をユースが取材・発信する「ユースリサーチプロジェクト」に関して、そして、活動を通じてアンケート調査でユースの回答がどのように変化したかなどの報告がされました。

ワークショップ終了後、同じ会場で毎年恒例の忘年会が開かれ、ワークショップと忘年会を合わせて 44 人が参加する大盛会となりました。2016 年の最大トピックスは、これを実現した RCJ と WIJ の連携強化のたまものでした。(文、佐藤湧馬)

RCJ 会員は、James McGill、苑原俊明、新井雄喜、伊藤朋子、林聡彦、亀山保、後藤安子、小松潔、佐々木優、佐藤真久、新田一仁、白石拓也、田辺篤志、土居正典、長倉恵美子、中村玲子、深澤まりな、武者孝幸、山本賢樹の 18 人が参加しました。

なお、これに先立って、昨年 2 月に急逝したじゃいあんこと高橋一也さん(会員)のお墓参りを、武者孝幸、林聡彦、中村玲子、佐々木優、尾崎友紀さんですませました。



尾崎友紀さん



ユースラムサールジャパン

